

寶林精舎

《題字・森神紫陽》

晋山式

檀徒総代

小野 永生

新年明けましてお目出
とうございます。

昨年は皆様方には大変
なご協力いただき誠に有
り難うございました。お
陰をもちまして三十年ぶ
りの晋山式を大勢の方が
見守る中、立派に成す事
が出来ました。そして五
百年の歴史を誇ります私
共の菩提寺正定寺に新御
住職様をお迎え出来まし
た事を共に喜び感謝でい
っぱいです。

先ずは儀式を執り行っ
て頂きました洞明寺、崇
圓寺、瑞祥寺の各法類の
和尚様をはじめ、北は一
昨年の東北大地震で未だ
復興にご苦労されておら
れます宮城県より南は沖
縄県まで全国各地より七
十七ヶ寺の和尚様にお集

まりいただき江戸時代か
らの厳肅なる儀式が行わ
れ正定寺に代々受継がれ
ております「衣」を第二
十三世寿山和尚様より第
二十四世南陽和尚様へと
継がれ新御住職様の誕生
相成りました事に全ての
和尚様に感謝申し上げます。
並びに三九八軒の檀
家の皆様、そして関係者
各方面の方々にお礼申し
上げます。約三年前に前
御住職様の体調に異変が
生じ、それより晋山式の
準備を始めましてからは
世話人様を通じて地区
毎の説明会をさせて頂
く中ご協力をお願いさせ
て頂きました。皆様方か
らの前向きなご理解と当
日までのご協力により全
てが順調に進みました事
に深く感謝申し上げます。
更に心暖まる過分な
ご寄進をしていただき



ました篤志の方々には紙面
をお借りして厚くお礼申
し上げます。又いつもお
世話していただいております
ます地区世話人さん、花
園会女性部、花園会青年
部、他役員の方々には三
年間に渡り仕事の傍ら準
備に携わりのご協力有り
難うございました。

最後になりましたが、
先御住職様には三十年の
長きに渡り大変お疲れさ
までした。そして何時も
私共檀家の事を大切に思
って頂き、又やさしく接
していただき、全てに感
謝の気持ちでいっぱいで
す。ありがとうございます
です。準備にかかる三年
前に「元気な姿で晋山式



瑞祥寺さんを先頭にして
山門に到着

新年號（第58號）

正定寺花園会広報

平成25年正月発行 発行所 一部単価135円(非売品)

檀信徒数 市内：324戸 市外：74戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syojoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原 南陽 閑栖 小原 寿山

勉強堂さんのご厚意で
カラー印刷になりました。
感謝！感謝！

を見届けたい」と言われた言葉を儀式の途中に思いついた、こみあげるものがあり、今後は少し身体をいたわりゆつくりして下さい。今迄にお受けしましたご恩は、新御住職様のお導きの基、新たな気持ちで菩提寺の護寺運営により一層お努めします事をお約束し今迄の感謝に代えさせていただきます。

檀徒総代

甲斐 照光

平成二十四年十一月二十四日臨濟宗妙心寺派、宝林山正定寺第二十四世南陽和尚様の晋山式が近くの和尚様は勿論、全国各地から多くの和尚様の御光来をいただき、又壇信徒皆様の出席のもと盛大に挙行されました。

日程に従い十一月も半ばから各行事が行われましたが、十一月二十四日は計画どおり分衛所・安下所・晋山稚児行列・茶礼所の各行事が無事終りいよいよ本番、晋山式の儀式が執行されました。緑の山を背に内外とも整った寺院での晋山式、本場にすばらしい一語につきまます。すばらしい晋山式は伝統ある正定寺の誇りです。

南陽和尚様には申すに及ばず、御両親様、御家族の皆様のおよろこびは如何ばかりかとお祝い申し上げますと共に和尚様の御健勝と正定寺様のご隆盛をお祈り申し上げます。

本場におめでとうございます。次はこのたびの晋山式



分衛所の立て札

分衛所の儀式を私宅に指定をいただきました。八名の和尚様方を始め小野永生総代会長様ご夫妻、花園会婦人部の皆様外多くの皆様で南陽和尚様をお迎えして無事式を終えることができました。本場にありがとうございました。



甲斐家に到着する新命和尚さん



随行する和尚さん方

又このたび晋山式で私



お茶を頂く



分衛所での女性部



次の安下所に向かう

事、妙心寺派管長様より総代永年勤続の廉により感謝状をいただきました。何もお役にたたなかった私にこの様な身にあまる賞、併せて深くお礼を申し上げます。

最後に花園会役員、地区世話人、花園会婦人部、青年部の皆様、長い間何かとお世話にあずかり、まことに有難うございました。どうかこれからもよろしく御高庇を賜りたく何とぞよろしくお願い申し上げます。

正定寺総代としてはじめて本山感謝状を受ける甲斐照光さん



檀徒総代
安藤 廣美

明けましておめでとう
ございます。旧年中は檀
信徒のみなさまには晋山
式をはじめ大変お世話に
なりました。その晋山式
を振り返り寄稿させてい
たきます。

安下所の看板が国道の
入り口と安藤家の門の前
の二か所に立ったのが昨
年の十月十三日で、晋山
式の四十一日前でした。
その日以降、近所の方や
通行人の方から「安下所」
って何の看板ですか？と
よく聞かれました。約三
十年に一度しか行われな
い行事ですから、ほとん
どの方が聞きなれない言
葉のようでした。

晋山式の十日前の十一
月十三日には、「知客寮



安下所の立て札

検単」と言う安下所の下
見があり、瑞祥寺・龍護
寺の和尚さんやカメラマ
ンの方が来て当日の手順
を確認しました。そして
前日の二十三日には「新
命和尚安下所諷経・茶礼
習練」というりハーサル
が行われ、茶礼の儀式に
は、婦人部の大竹琴美部
長さんはじめ広瀬芳子さ



安下所でお参り(諷経)する和尚さん方



一同介して抹茶を頂く

ん・柳井久美子さん・戸
高恵理さんと柳井みはる
さんがお菓子、抹茶のた
て方配りの方が本番さなが
らに行われ、当日の準備
も万端に整いました。
いよいよ晋山式の当日
となり、一番心配された
天気も曇り空ではありま
したが雨の心配はなく、
八時前には稚児さんや保



晋山行列の先頭植田純市さん



新命を先導する総代

護者の方も続々集まり始
め、稚児行列の出発地点
では行列に参加する人た
ちで大混雑の状態となっ
ていました。
予定時刻の八時五十分
少し前に分衛所より新命
和尚他七名の和尚さんと
甲斐・小野総代さんが到
着し、ここで新命和尚さ
んは雲水衣から晋山式様
の金襴袈裟へ着替えられ
総代四名も羽織袴・夫人
も色留袖の正装でお寺よ



万延時代の道中駕籠を担ぐ
同級生

りの使者を迎える準備が
整いました。
九時前から「安藤家先
祖諷経大悲呪回向」のお
経、続いて使者の龍護寺
和尚・瑞祥寺和尚さんよ
り茶礼の口上があり全員
で抹茶をいただき、いよ
いよ晋山稚児行列の出立
です。
行列は、新命和尚さん
を主役に稚児五名とそ
の保護者、和尚様・提灯
持ち・大傘持ち・籠担



花を添える同級生



新命和尚さんに大傘を
かざす甲斐龍太さん



お稚児さんと保護者

ぎ・総代・役員を含めて総勢一七十名以上で、先頭から八十m以上の大行列となりました。特に、籠を担いだのは新命和尚さんの同級生の方たちで、お祝いに駆けつけてくれたそうです。

行列が整うと、先頭で袴姿の植田純市世話人が出立口上「ただいまより正定寺第二十四世新命和尚さま晋山稚児行列の出立でございます」を声高らかに読み上げ、出立の合図の打ち上げ花火が天高くとどろき、先頭の柝（拍子木）の音に合わせて稚児行列がゆつくりと厳かに進んでいきましました。行列は安下所から振



お稚児さん



約三十分の稚児行列も

興局駐車場までの約三百メートルで行われましたが、久留須町内の沿道には、この晋山式稚児行列を見ようと大勢の見物客がいっぱいで、かわいらしい稚児衣装で着飾った、孫や子供の晴れ姿をカメラで撮影する光景があちらこちらで見られました。



一行を参道で迎える

先般十一月二十四日に行われました第二十四世新命南陽和尚様の格式ある晋山式が日本各地から七十余名の和尚様方をお迎えして、盛大な中にもおごそかに執り行われました事本当に感銘いたしました。各総代様、役員の皆様、壇信徒の方々、

女性部部长
大竹 琴 美

振興局まで無事到着し終了いたしました。

安下所での儀式や稚児行列も滞りなく終了し、お世話をいただいた関係各位に心よりお礼を申し上げます。

そんな中役員の皆様には、和服の礼装を着て戴き身の引き締まる思いと華やいだ気持ちと同時に体験させて戴きました。

今後は新命和尚様におかれましては、壇信徒の見守る中益々のご活躍と精進されまして皆様に愛される新命南陽和尚様に

女性部役員の皆様、一般参拝者の皆様様の絶大なご協力を頂きました事感謝の気持ちでいっぱいです。

又、分衛所、安下所、茶礼所の皆様方には、ひとつかたならぬご配慮ご厚情を賜り心からお礼申し上げます。



本堂が一杯になる

なられる事と信じて居ります。

壇信徒の皆様と一致団結して由緒ある寶林山正定寺様の一員として少しでも自分に出来る事から前進して参りたいと思つて居ります。言葉は尽くせませんが御礼のご挨拶と致します。皆様本当にお世話になり有難う御座いました。

女性部副部长
戸 高 松 栄

十一月二十四日の晋山式、一生に一度あるか、ないかと、言われる大変な式典に、参加させていただき、本当にありがたい事だと思っております。

何事もなく無事にスケジュールをすべて終わらせたことは、寿山和尚様の心こまやかな計画と大変な努力の賜物だともあります。お疲れ様でした。ありがとうございます。



石段を登ってくる晋山一行

雨も少しだけ降りましたが、これからの若き住職様の前途を示すかの様な照る日ばかりではない、わらじの紐を引き締めて心出す道へと進んで頂きたいと思えます。山門の石段をふみしめふみしめ上がって来る南陽和尚様一行をお迎えしつつ我が孫を、仏の道に送り出すような心境になりました。

拓郎和尚さま、これからも「拓郎和尚追っかけババドル」たちをよろしくお願いします。

最後に寺総代様を始め、檀家役員のみなさま大変なご協力ありがとうございました。古里の菩提座いました。



茶礼所での女性部

安下所儀式を終えられて、新命和尚様外七名の和尚様と総代の方々が、

女性部 副部長
安藤 いつ子



山門に到着して儀式を行う

提寺を末長く、子孫に受け継いで行ける様これからもよろしくお願いいたします。



羽織姿の小野道夫さんとお勤めする和尚さん

小野家に到着され、先祖調經大悲呪回向が営まれ皆様御一緒に御茶を召され、厳肅な雰囲気の中に安らぎを感じました。和尚様には、衣を緩められひとときを御過ごす様子が見受けられました。その後花火の合図と共に茶礼所を出発し小雨そぼ降る道を晋山行列は新命和尚様をお迎える境内参道へと御進まれました。尊きこの儀式に身を寄せさせていただきます御礼もうしあげます。

女性部 事務局
廣瀬 芳子

この度、幸いにも寶林



安下所でお茶を頂く
新命和尚

私は安下所で出立茶礼の供給のお手伝いをさせて頂き、金襴袈裟の装束に整えられた、南陽和尚様の立派なお姿に感無量でした。稚児行列にも参加し、お稚児さんや沿道の皆様がこの晋山式を祝福して下さり誇らしく思いました。

新命南陽和尚さんもこれからさらにご修行を積まれて立派な和尚様になりました。

山正定寺第二十四世南陽和尚様の晋山式に主人共々お手伝いするご縁にめぐりあえて、感謝しております。私達は、先代の豊嶽義弘和尚様にひとかたならぬお世話になっておりましたので、いっそう深いご縁を感じました。



抹茶を進める



伝統行事にふさわしい衣裳の女性部

られ、私達壇信徒をお導き下さりますようお願い致します。